

第4章 重点9品目推進計画

I. スプレーギク

推進スローガン 施設化と担い手確保による 高品質産地の維持を目指そう！

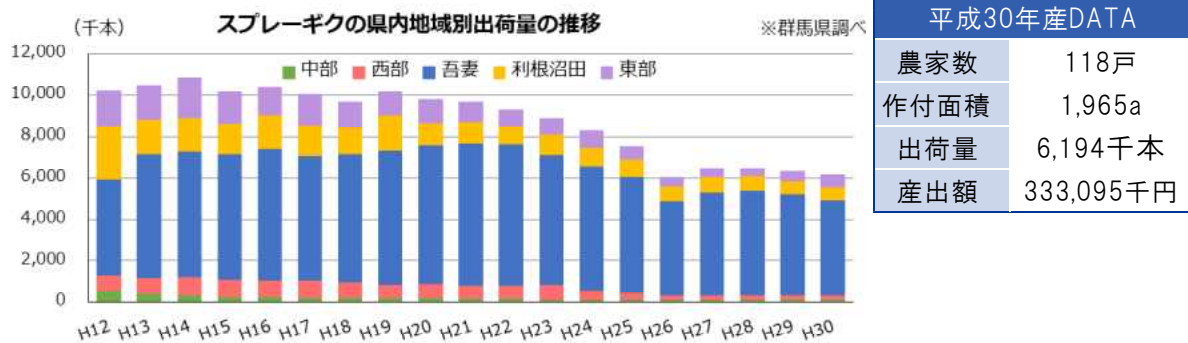


数値目標 作付面積 1,996a 出荷量 6,404千本

【主産地】吾妻地域

1. 現状と課題

(1) 生産状況



(2) 現状

中山間地を中心に産地が形成されている。

主産地である吾妻地域は、冷涼な気象条件を活かし、ボリュームや発色に優れる反面、耐暑性に劣るためオランダ育種の秋ギク系品種を中心に生産し、夏の高品質産地として市場における差別化が図られている。出荷量は県全体の約75%を占め、JA生産組織による共同販売や検品体制が整備されるなど、強固な産地基盤が構築されている。近年では補助事業等を活用した施設化が進み、高品質化や周年生産による作期拡大を推進している。また、スプレーギクを一輪に仕立てる「ディスバッドマム」生産など、産地の豊富な品揃えにも取り組んでいる。

近年は、生産者の高齢化により産地規模は縮小しつつある中、輸入品の品質向上や葬儀をはじめとした業務需要の縮小により、市場販売価格は頭打ちになっている。

主な課題

- ①意欲ある新たな担い手や後継者の掘り起こし、育成
- ②個々の生産者による品質の高位平準化と規格の遵守
- ③栽培ほ場の施設化や、病害虫対策の徹底による生産力及び販売力の向上
- ④共同販売と検品の体制整備（吾妻地域はすでに共販及び検品体制を構築）

2. 推進対策

(1) 担い手対策

a) 担い手確保に向けた体制整備

市町村やJAは、スプレーマム生産を志向する新規就農者に対し、就農相談窓口や研修先候補を整備するなど、受け入れ体制を整備する。

b) 担い手のニーズやレベルに応じた育成

技術支援課や農業事務所、JAが中心となり、新規参入者、農家子弟の後継者など対象となる担い手のニーズやレベル、経営環境に合わせた研修や指導等に取り組むことで、担い手の定着と育成を効果的に進め、経営感覚の優れた経営体を育成する。

(2) 生産対策

a) 露地ほ場の施設化推進による品質向上と作期拡大

市町村や農業事務所の連携により、補助事業等を活用した露地栽培ほ場の施設化を推進し、品質向上や温度管理等による作期拡大を図る。

b) 炭酸ガス施用を中心とした複合環境制御技術の検討及び導入による品質向上

c) ウイルス病及び難防除病害虫対策の確立と総合的病害虫管理（IPM）の普及

d) 既存生産者の規模拡大

e) 土壌診断に基づく適正施肥管理の定着

(3) 流通・販売・需要拡大対策

a) 検品体制強化による出荷物品質の安定

JAあがつま等で構築されている検品体制を参考に、県内各共販産地の検品体制を整備し、県全体で出荷物の品質安定に取り組む。

b) 出荷前の作柄や生産動向など産地の情報提供による予約相対率向上

導入品種の動向や作柄、開花状況などの情報について、出荷前から市場等へ提供する取組を促し、競売を中心とした取引から、単価が安定している予約相対取引や相対取引の割合を向上させる。

c) 市場展示による産地PRと販路拡大に向けた営業活動支援

産地の強み（導入品種の豊富さ、品質、集荷及び流通体制等）を主要市場、消費地の流通業者等へPRし、販路の維持拡大に取り組む。また、関西圏市場など本県産花きの流通量が少ない地域への販路開拓に取り組む。

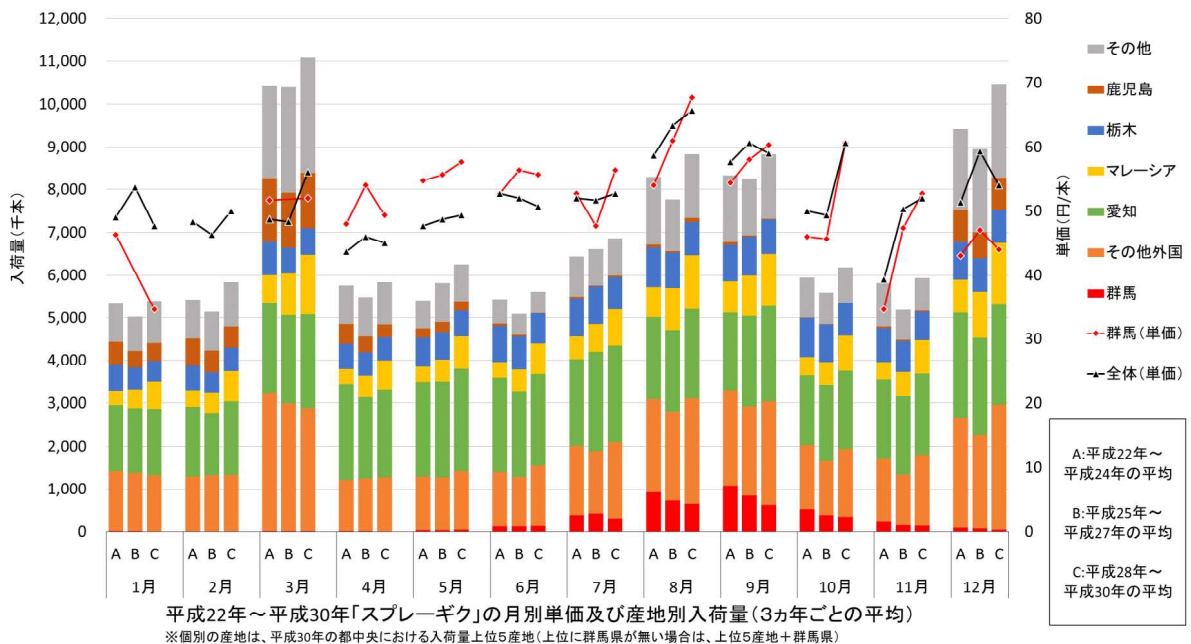
3. 各地域別推進対策

中部地域	—
西部地域	—
吾妻地域	● 担い手確保に向けた体制整備 ● 施設化推進による品質向上と作期拡大 ● 既存生産者の規模拡大
利根沼田地域	● 担い手のニーズやレベルに応じた育成 ● 難防除病害虫対策の推進
東部地域	● ウイルス病(キク矮化病等)対策の推進

4. 数値目標

スプレーギク	平成26年 (参考)	平成30年 (基準年)	令和7年 (目標年)	R7/H30
作付面積(a)	2,225	1,965	1,996	102%
施設	486	1,147	1,268	111%
露地	1,739	818	728	89%
出荷量(千本千鉢)	6,079	6,194	6,439	104%
農家数(戸)	141	118	114	97%

5. 東京都中央卸売市場における入荷動向



Ⅱ.コギク

推進スローガン
**県育成品種「小夏」シリーズを核とした安定生産と
 担い手の育成により産地維持を目指そう！**

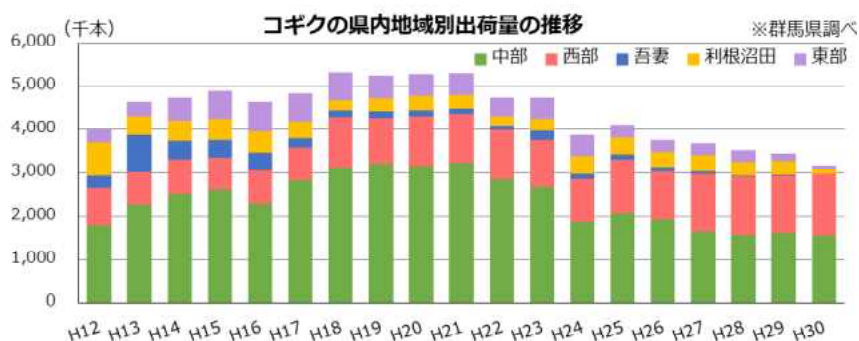


数値目標 作付面積 1,588a 出荷量 2,917千本

【主産地】中部地域、西部地域

1. 現状と課題

(1) 生産状況



(2) 現状

中部・西部地域の平坦地から中山間地を中心に作付され、主に盆や秋の彼岸など、供花需要に向けて生産出荷されている。

花きの中では初期投資が少ない品目で、安定した需要があることから、県では第5次計画(平成24～27年度)において、新たな担い手の掘り起こしや産地拡大、栽培技術支援について重点的に取り組んだ。

また、農業技術センターでは県内主産地の気象条件で適期開花する県オリジナル品種の育成に取り組み、「小夏の風(白色・平成22年8月登録)」、「小夏の月(黄色・平成23年3月登録)」、「小夏の星(黄色・平成27年3月登録)」、そして新たに待望の赤色系品種「小夏の恋(赤紫色・令和2年3月登録)」を育成した。花束加工に必要な定番色の3色を揃え、現地への普及を図っている。

担い手の高齢化が進み、農家数及び作付面積の減少が続いている。また、露地栽培が中心であることから、近年多発する豪雨や異常高温など気象災害の影響を受け、A品率低下や開花遅延など経営の不安定さが増している。

主な課題

- ①新規就農や複合経営としての品目導入など、新たな担い手の掘り起こしと育成
- ②県育成品種「小夏シリーズ」を活用した産地振興と、需要期出荷に向けた栽培管理の徹底
- ③市場、直売所、消費者に向けた「小夏」シリーズのPR強化

2. 推進対策

(1) 担い手対策

a) 幅広い担い手の掘り起こし

コギクは、花きの中では導入の初期投資が少なく、労働強度が軽いことから、定年帰農者や女性農業者等に対し作付けを推進する。また秋冬野菜等との複合経営品目の一つとして、また耕作放棄地対策に向けた作付品目としても推進を図る。

b) 担い手確保に向けた体制整備

主産地では就農相談窓口や研修先候補を整備するなど、地域の実情に応じ市町村を中心とした受け入れ体制を整備し、関係機関が連携し総合的な就農支援に取り組む。

c) 担い手のニーズやレベルに応じた育成

技術支援課や農業事務所、JAが中心となり、新規参入者、農家子弟の後継者など対象となる担い手のニーズやレベル、経営環境に合わせた研修や指導等に取り組むことで、担い手の定着と育成を効果的に進める。さらに、他の花き品目や野菜等との組み合わせによる所得確保を図ることにより、経営感覚の優れた経営体を育成する。

(2) 生産対策

a) 県育成品種「小夏」シリーズの導入推進

群馬県園芸協会を通じて、本県オリジナル品種「小夏」シリーズの導入を推進し、県やJAの現地指導や現地検討会等により、産地への定着及び作付拡大を推進する。

b) 需要期出荷に向けた開花調節技術の定着

c) 出荷調製作業の省力化に向けた選花機導入推進

d) 採花後の水揚げなど鮮度保持対策の推進

e) ウイルス病及び難防除病害虫対策の確立と総合的病害虫管理（IPM）の普及

f) 省力的防除方法の推進

g) 連作障害対策技術の普及

(3) 流通・販売・需要拡大対策

a) 県育成品種「小夏」シリーズのPR強化

蚕糸園芸課は、発色の良さや花束加工に向く扱いやすい草姿などの特徴を流通販売業者へ発信し、産地としての信頼を高める。また、ラベル貼付等により「小夏」シリーズをPRし、直売所や消費者に対し認知度向上を図る。

b) 出荷前の作柄や生産動向など産地情報の提供による予約相対率向上

導入品種の動向や作柄、開花状況などの情報について、出荷前から市場等へ提供する取組を促し、競売ではなく、単価が安定している予約相対取引や相対取引の割合を向上させる。

c) 出荷規格の統一と検品体制強化による出荷物品質の安定

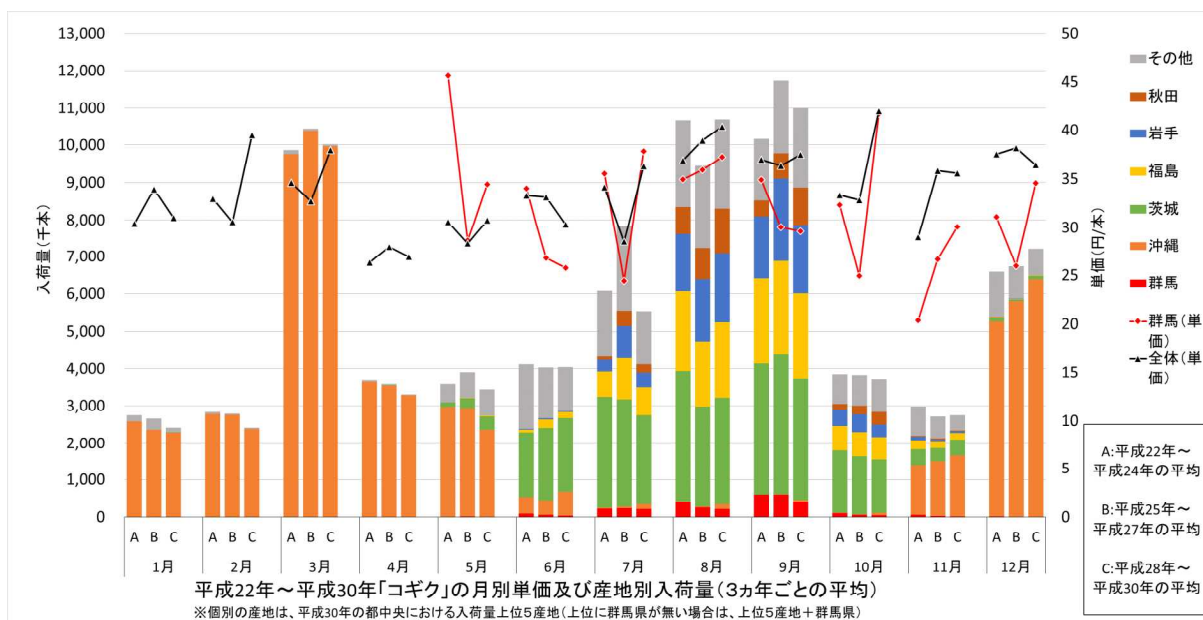
3. 各地域別推進対策

中部地域	● 幅広い担い手の掘り起こし ● 担い手確保に向けた体制整備 ● 産地情報の提供による予約相対率向上 ● 出荷規格統一と検品体制強化による出荷物品質の安定
西部地域	● 県育成品種の導入推進
吾妻地域	—
利根沼田地域	—
東部地域	● 難防除病害虫対策の推進

4. 数値目標

コギク	平成26年 (参考)	平成30年 (基準年)	令和7年 (目標年)	R7/H30
作付面積(a)	1,931	1,628	1,588	98%
施設	63	30	30	100%
露地	1,868	1,598	1,558	98%
出荷量(千本)	3,750	3,167	2,875	91%
農家数(戸)	192	153	147	96%

5. 東京都中央卸売市場における入荷動向



第4章 重点9品目推進計画

Ⅲ.バラ (重点課題プロジェクト品目)

推進スローガン
**複合環境制御技術による生産性向上を図り、
高品質及び出荷増の両立を目指そう！**



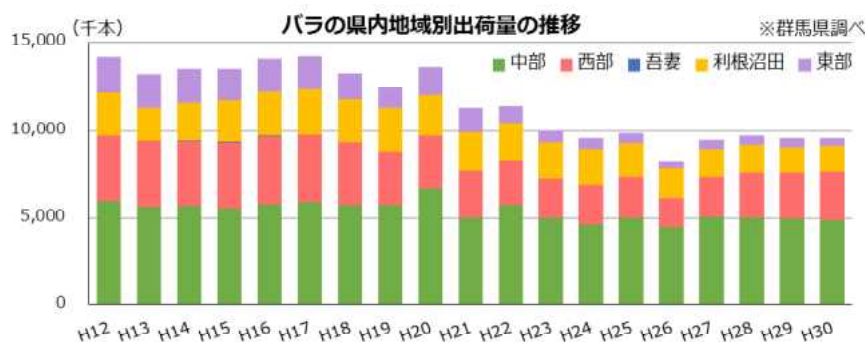
数値目標 作付面積 1,054a 出荷量 10,014千本

【主産地】中部地域、西部地域

【生産者組織】日本ばら切花協会群馬県支部

1. 現状と課題

(1) 生産状況



(2) 現状

主産地は中部地域や西部地域、利根沼田地域で、このうち平坦地では周年出荷を行っている。大型温室を整備するとともに養液栽培システムを導入し、花きの中では比較的后継者への世代交代が進み、経営発展に向けた取組や組織活動が積極的に行われている。

県では第6次計画(平成28～令和元年度)において、より高い生産性を目指すため複合環境制御技術の普及に重点的に取り組んだ。その結果、夜間冷房などに加え炭酸ガス濃度管理や湿度管理などの環境制御装置の導入が進み、さらに現在は栽培環境の測定により温室内環境の「見える化」を図り、最適な光合成環境を作り出すための技術確立に取り組んでいるところである。

本県産のバラは、全国品評会で上位を独占するなど、高品質産地として市場や実需者から高い評価を得ており、主要市場の平均単価も上位に位置している。

主な課題

- ①意欲ある後継者世代の育成
- ②高い品質の維持及び複合環境制御技術等を活用した生産性の向上
- ③産地PRや消費宣伝等による既存販路の拡大による価格安定
- ④インターネット販売やドライフラワー、ブーケ加工による6次産業化など、新たな販路の開拓

2. 推進対策

(1) 担い手対策

a) 第三者継承を含めた担い手の掘り起こしと確保に向けた体制整備

バラ経営は、初期投資が大きく、所得が得られるまでの期間が長いことなどから、新規参入者におけるバラ生産の導入や他品目からの経営転換が非常に難しい部門である。担い手確保に向けては、施設や機械等の生産基盤について貸し手借り手のマッチングや第三者による経営継承を推進し、新規就農者の初期投資を抑えられるよう、市町村や農業事務所、蚕糸園芸課等が密に連携して支援体制を整備する。

b) 若手後継者を中心とした担い手の育成

バラは他品目に比べ比較的后継者が確保され、世代交代が進んでいる品目であるが、環境制御装置の導入が進んだことで技術が高度化したため、経験の浅い若手後継者は就農後の短期間で多くの知識や技術を習得する必要性に迫られている。

そこで、技術支援課や農業事務所が中心となり、後継者世代への生産技術指導や集合研修に取り組みとともに、生産農家間の情報交換を促進し、後継者世代が短期間に生産技術を高めるられるよう、担い手の育成を推進する。

c) 労働力確保対策の検討

生産性向上による作業量の増加、生産者の高齢化、雇用確保の難しさなど今後、人手不足はより深刻化することが予想される。労働力の不足は、出荷量の制限要因や品質低下にも影響することから、農業構造政策課と農業事務所が連携し、雇用管理等のノウハウに関する研修や多様な人材の活用など、労働力確保対策に取り組む。

d) 日本ばら切花協会群馬県支部等生産者組織の活動支援

(2) 生産対策

a) 環境要素の「見える化」や複合環境制御技術の確立等による収量・品質向上

農業事務所は、生産者とともに栽培環境の測定とデータの収集及び蓄積、分析を行い、環境要素の「見える化」に取り組む。さらに、生産者間で測定データを共有し、データの分析力向上を図る。

技術支援課は、蓄積した知見やデータに基づき群馬県オリジナルの環境制御マニュアルを作成し、増収と品質向上を目指す。また、技術支援課と農業技術センターが中心となり、日射比例かん水システムの現地実証にも取り組み、環境に応じた給液量の最適化を図る。

b) 施設及び付帯設備の適期更新

c) 難防除病害虫対策の確立と総合的病害虫管理（IPM）の普及

(3) 流通・販売・需要拡大対策

a) 輸出を見据えた鮮度保持対策技術の開発・普及

海外への輸出も視野に入れた販路開拓に取り組むためには、長期輸送に対応した鮮度保持技術の確立が必要である。そこで、農業技術センターと生産者が連携し、相手国の輸送期間に対応した鮮度保持、切り前、品種などを検討するとともに、蚕糸園芸課、ぐんまブランド推進課ではそれらの技術をベースに海外の販路を開拓する。さらに、鮮度保持の技術力を新たな強みとして海外に発信し、本県産バラの高付加価値化にもつなげる。

b) 市場展示による産地PRと販路拡大に向けた営業活動支援

蚕糸園芸課と日ばら群馬県支部をはじめとする生産組織が連携し、市場展示や店頭での売り込み、生花店での産地フェア、PRイベント開催などの販売促進活動に取り組む。また、蚕糸園芸課と農業事務所は、産地情報の発信を支援するとともに、ドライフラワーやブーケ加工についてのマーケットリサーチを支援する。

c) バラ産地の認知向上と需要拡大の推進

本県産のバラは、全国屈指の品質を誇り市場評価も高い。そのため、蚕糸園芸課では優れた品質に関する情報を生花店や消費者へ伝えるとともに、消費者に対し家飾りや贈り物としてバラを使うきっかけを提供するなど、バラをはじめとした花の需要拡大を推進する。

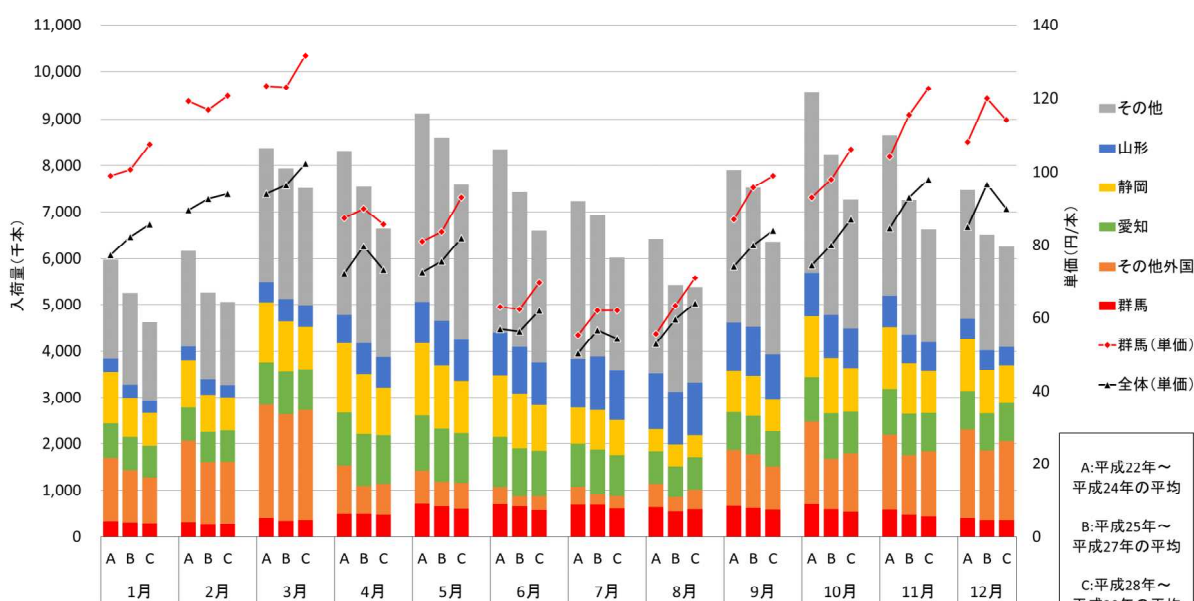
3. 各地域別推進対策

中部地域	● 労働力確保対策の検討 ● 複合環境制御技術の確立
西部地域	● 複合環境制御技術の確立
吾妻地域	—
利根沼田地域	● 複合環境制御技術の確立 ● 難防除病虫害対策の推進とIPMの普及
東部地域	● 複合環境制御技術の確立

4. 数値目標

バラ	平成26年 (参考)	平成30年 (基準年)	令和7年 (目標年)	R7/H30
作付面積(a)	1,283	1,229	1,054	86%
出荷量(千本)	8,274	9,595	10,084	105%
農家数(戸)	45	38	29	76%

5. 東京都中央卸売市場における入荷動向



平成22年～平成30年「バラ」の月別単価及び産地別入荷量(3か年ごとの平均)

※個別の産地は、平成30年の都中央における入荷量上位5産地(上位に群馬県が無い場合は、上位5産地+群馬県)

IV.トルコギキョウ

推進スローガン
生理障害対策と長期出荷により高い収益性の確保及び生産拡大を推進しよう！

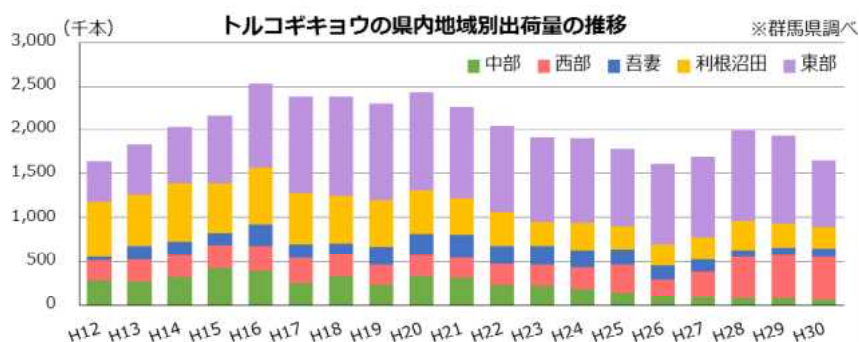


数値目標 作付面積 579a 出荷量 1,722千本

【主産地】東部地域

1. 現状と課題

(1) 生産状況



(2) 現状

県では、第3次計画(平成13～17年度)において重点振興品目に位置づけ、東部地域を中心に新産地育成に取り組んだ。その結果、太田地区や邑楽館林地区に産地が形成され、初冬から初夏にかけて長期の出荷が行われている。さらに東部地域では近年、炭酸ガス施用や大苗定植など新たな技術の検討や導入も積極的に行われ、後継者も確保されている。一方、利根沼田地域では冷涼な気象条件を活かし、夏から秋にかけて出荷が行われている。

トルコギキョウは日保ちの良さや品種のバリエーションの豊富さなどが実需者に評価され、多様な用途で利用されている。安定した需要に支えられ、ここ数年は他の花き品目に比べ、販売単価が高い水準で維持されている。

生産面において、ロゼット化やプラスチック、病害(斑点病、立枯病)による生産ロスが多いことが、課題となっている。

主な課題

- ①斑点病をはじめとする難防除病害虫対策の確立
- ②安定出荷に向けた生理障害対策(苗のロゼット化やプラスチック)の徹底
- ③高単価販売が期待できる母の日前の2番花出荷や品種の組合せによる長期出荷、単位面積当たりの生産性向上、収益確保による経営安定

2. 推進対策

(1) 担い手対策

a) 担い手確保に向けた体制整備

主産地では、就農相談窓口や研修先候補を整備するなど、地域の実情に応じ市町村を中心とした受け入れ体制を整備し、関係機関が連携し総合的な就農支援に取り組む。

b) 担い手のニーズやレベルに応じた育成

技術支援課や農業事務所、JAが中心となり、新規参入者、農家子弟の後継者など対象となる担い手のニーズやレベル、経営環境に合わせた研修や指導等に取り組み、担い手の定着と育成を効果的に進め、経営感覚の優れた経営体を育成する。

c) 直売所出荷者や他品目生産者等に向けたトルコギキョウへの品目導入・転換の推進

(2) 生産対策

a) 生理障害対策の普及

技術支援課と農業事務所を中心に、種子冷蔵苗の利用、品種特性把握によるロゼット化対策技術の普及、花蕾整理や適正な施肥、温度管理によるブラスチング対策技術の普及に取り組む。

b) 作型に合った品種の選定

c) 炭酸ガス施用を中心とした複合環境制御技術の検討及び導入による品質向上

d) 変温管理（EOD）技術等による2番花の母の日前出荷の推進

e) 産地間の情報交換による生産性向上支援

東部及び利根沼田以外の地域では生産者が点在していることから、蚕糸園芸課と技術支援課が連携し、産地を越えた現地検討会や品種検討など産地合同の技術研鑽等の活動に取り組み、効果的な生産性向上や生産者間の情報交換を推進する。

f) ウイルス病及び難防除病害虫対策の確立と総合的病害虫管理（IPM）の普及

令和元年5月に県内で初確認された新病害である斑点病は、現状では明確な防除対策が確立されていない。そのため、農業事務所は購入苗による病害の持ち込みやほ場衛生管理の徹底を指導する。また、農業技術センターや技術支援課は効果的な防除対策を検討するとともに、農業事務所と連携し有効な防除事例の共有を図る。

g) 連作障害対策技術の普及

(3) 流通・販売・需要拡大対策

a) 市場展示による産地PRと販路拡大に向けた営業活動支援

産地の強み(導入品種の豊富さ、品質等)を主要市場、消費地の流通業者等へPRし、販路の維持拡大に取り組む。

b) 高温期の高い日保ち性等トルコギキョウの特徴を活かした需要拡大の推進

夏の高温時における日保ちの良さを強みとし、夏でも花を楽しめる工夫を提案する。また、産地間で作付計画の情報共有を図りつつ、県内全域をひとつの産地とした販路拡大を推進する。

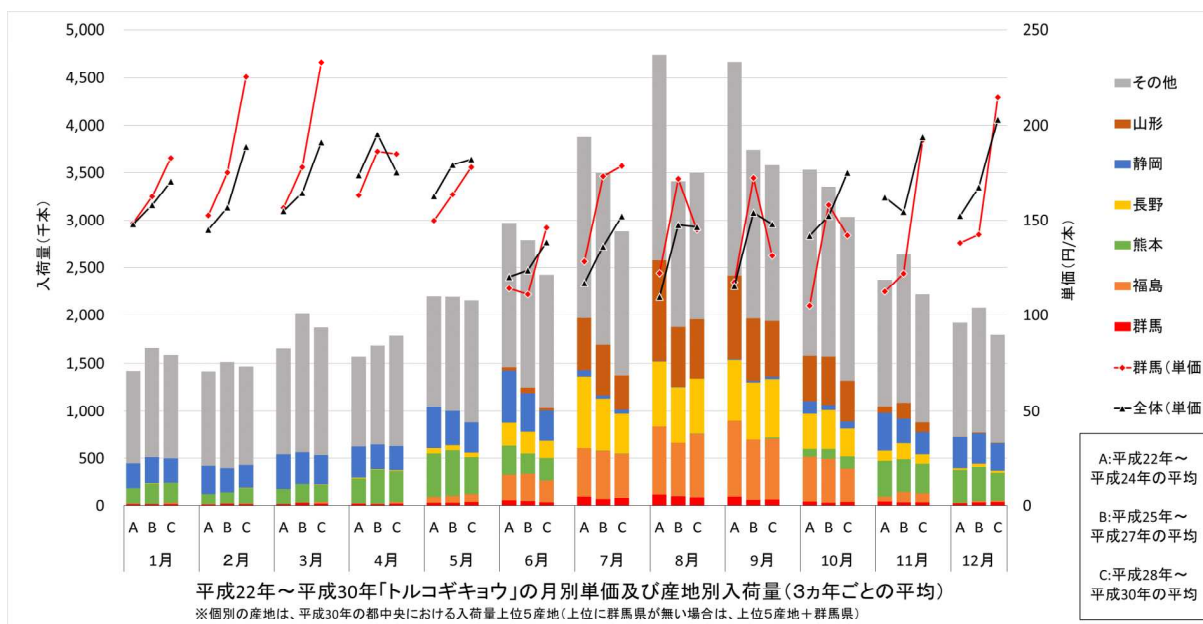
3. 各地域別推進対策

中部地域	● 作型に合った品種の選定 ● 難防除病害虫対策の確立
西部地域	● 難防除病害虫対策の確立 ● 連作障害対策技術の普及
吾妻地域	—
利根沼田地域	● 担い手のニーズやレベルに応じた育成 ● 難防除病害虫対策の確立
東部地域	● 担い手のニーズやレベルに応じた育成 ● 複合環境制御技術の導入推進による生産性向上 ● 難防除病害虫(斑点病等)対策の確立 ● 連作障害対策技術の普及

4. 数値目標

トルコギキョウ	平成26年 (参考)	平成30年 (基準年)	令和7年 (目標年)	R7/H30
作付面積(a)	576	582	539	93%
出荷量(千本)	1,614	1,660	1,732	104%
農家数(戸)	52	46	45	98%

5. 東京都中央卸売市場における入荷動向



第4章 重点9品目推進計画

V. 枝物類 (切り花アジサイを除く)

推進スローガン

ニーズに応じた品目・品種選定と担い手の確保で産地維持を目指そう！

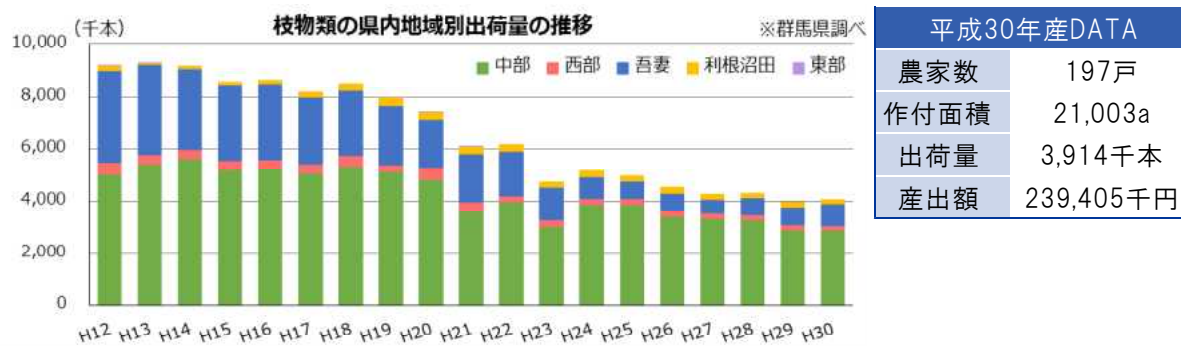


数値目標 作付面積 18,836a 出荷量 3,605千本

【主産地】中部地域

1. 現状と課題

(1) 生産状況



(2) 現状

中部地域や吾妻地域の中山間地域が生産の中心であり、ハナモモの促成栽培や季節ごとの実物、葉物、塗り物など、多種多様な品目が生産されている。ハナモモを除き、多くの品目で規格の統一が難しく、個選個販を主体とした出荷形態が課題として挙げられる。

また、古くからの産地が多いこともあり担い手の高齢化が進み、後継者が就農している産地が少ないことも課題である。

近年、国内外における和風文化の流行により、季節感が強い枝物は需要が高まりつつある一方、国内の主な枝物産地では、本県と同様に高齢化と担い手不足が進行した結果、供給が不足する状況となっている。そこで市場では近年、需要に合わせて国内外の産地からの枝物集荷に力を入れている。

主な課題

- ①実需者のニーズに合わせた品目や品種選定による選ばれる産地づくりの推進
- ②意欲ある担い手への成園の集積などによる産地の維持

2. 推進対策

(1) 担い手対策

a) 担い手確保に向けた体制整備

枝物類は定植後、ある程度の収量が得られるまでに年数を要するため、新規栽培者にとっては導入初期の所得確保が課題として挙げられる。その一方で、既存生産者の高齢化による枝物生産ほ場の耕作放棄も懸念されている。そこで、産地維持に向け生産者やJA、市町村、農業事務所等が連携して遊休枝物ほ場の情報を共有するとともに、新規栽培希望者との農地のマッチングや意欲ある担い手への集積を促進するための「ワンストップ窓口」を設置するなど、将来を見据えた産地維持対策として、農地のスムーズな継承、集積を支援する。

b) 担い手のニーズやレベルに応じた育成

技術支援課や農業事務所、JAが中心となり、対象となる担い手のニーズやレベル、経営環境に合わせた研修や指導等に取り組むことで、担い手の定着と育成を効果的に進め、経営感覚の優れた経営体を育成する。

c) 耕作放棄地対策及び鳥獣被害対策としての枝物導入推進

d) 生産者組織の活動支援

(2) 生産対策

a) 品目及び品種の多様化による産地競争力の向上

b) 難防除病害虫対策の確立と総合的病害虫管理（IPM）の普及

生育期の病害虫防除を徹底し、着花率の向上を図る。また近年、一部地域で被害が発生しているクビアカツヤカミキリの被害防止対策に取り組む。

c) 実需者のニーズに合わせた品目の導入推進

d) 花物（サクラ等）の安定開花技術の普及

(3) 流通・販売・需要拡大対策

a) 出荷前の作柄や生産動向など、産地情報の提供による予約相対取引の拡大

b) 市場展示による産地PRと販路拡大に向けた営業活動支援

3. 各地域別推進対策

中部地域	● 担い手のニーズやレベルに応じた育成 ● 生産者組織の活動支援
西部地域	● 品目及び品種の多様化による産地競争力の向上
吾妻地域	● 難防除病害虫対策の推進
利根沼田地域	● 担い手のニーズやレベルに応じた育成 ● 産地情報の提供による予約相対取引の拡大
東部地域	● 新規栽培者の掘り起こし

4. 数値目標

枝物類 (切り花アジサイを除く)	平成26年 (参考)	平成30年 (基準年)	令和7年 (目標年)	R7/H30
作付面積(a)	23,596	21,003	18,836	90%
出荷量(千本)	4,530	3,914	3,542	90%
農家数(戸)	238	197	176	89%

5. 東京都中央卸売市場における入荷動向

